

ご協力いただきました皆さま、一年間ありがとうございました！



2012年7月22日「親子の日2012スーパーフォトセッション」終了時の記念写真

◆新井美保◆石井正人◆石原繁◆磯貝日月◆井上佳子◆猪股敏郎◆上田壮一◆エスケン◆大関和彦
◆ブルース・オズボーン◆実佳・オズボーン◆由良・オズボーン◆織田裕睦◆梶原美紀◆川瀬なおつぐ
◆川口花乃子◆岸俊一◆木村晋介◆木村仁美◆ジム・クーパー◆久野寛子◆熊谷正◆倉本信之◆小斎富士子◆
後藤マリヤ◆酒井正樹◆桜井武司◆桜井健太◆佐藤仁◆沢田節子◆鹿野貴司◆志喜屋秀壮◆関智◆善福
克枝◆高橋まゆみ◆田中勇樹◆谷口千絵◆堤哲◆手塚俊平◆長塚かおる◆林和男◆ピーター・バラカン
◆樋貝吉郎◆平田麻子◆広川泰士◆福原義久◆古河雄太◆古田裕江◆本田努◆松井はるの◆松井ヒカル
◆松井博司◆松井真守美◆松崎稔◆水野誠一◆宮崎光弘◆宮庄宏明◆森下茂男◆森田わかな◆森田
似季◆山田真理◆柚木公奈◆吉岡篤史◆吉瀬千春◆吉村輝幸◆横山泰介◆渡辺熱◆ビクター・ワラノフ
(あいうえお順／敬称略)

親子の日普及推進委員会
<http://www.oyako.org>

7月の第4日曜日は 親子の日 2012年 活動報告書 *present to the future*

年に1度、親と子がともに向かい合う日があったっていい。
その日を通じて、すべての親子の絆が強められたら素晴らしい。
そんな願いを込めて、7月第4日曜日を「親子の日」にしたいと私たちは考えました。
2012年は、7月22日が「親子の日」。
みなさまからのご協力をいただき、
親と子の距離がぐっと縮まる数々のイベントを開催し、
おおくの共感をいただくことができました。



「親子の日」は10回目！



th

© Photo : BRUCE OSBORN / OZONE INC. Illustration : YURA OSBORN Design : SETSUKO SAWADA

present to the future

5月第2日曜日は、母の日。6月第3日曜日は、父の日。

7月第4日曜日は、親子の日。

『生まれて初めて出会う「親」と「子」の関係を見つめ、家族、地域、社会、そして自然をも含むすべての「環境」に敬意をはらい、平和を願う』という思いを込めて、2003年に「親子の日」のオリジネーターであり、米国人写真家 ブルース・オズボーンは、7月の第4日曜日を「親子の日」と提唱しました。

その理念に共感し、「親子の日」を『親と子がともに向かい合う日に、そしてその日を通じてすべての親子の絆が強められる日に、さらには存在する事に感謝できる日に』と「親子の日普及推進委員会」を発足。「親子の日」を定着させるために、さまざまな企画を実施してきました。これからも多くの人たちに、ブルース・オズボーンの願いと私達の理念が届くように、「親子の日」のメッセージを世界に向けて発信していきたいと考えています。

“present to the future” という「親子の日」のスローガンが表すように、「親子の日」に込めた思いは、きっと未来への宝物になると信じて、今後も活動を続けていきたいと思っています。



親子の日普及推進委員会
<http://www.oyako.org>

◆ブルース・オズボーン プロフィール <http://www.bruceosborn.com/>

Art Center College of Design で、コマーシャル写真を専攻。1980年の写真展「LA Fantasies」をきっかけに、日本での活動を本格的に開始。ボストン子供の博物館の企画展「TEEN TOKYO」では、東京のティーンエイジャーを撮影して展示。ボストンのMCET 制作、インターネットを使つての双方向教育番組では8回にわたってディレクターを務め、アメリカの高校生にむけて“生の日本情報”を伝えた。

1982年から始めた「親子」写真の撮影は今年で31年目になり、撮影した親子の数は4000組を超える。2003年より7月の第4日曜日を「親子の日」と提唱したオリジネーターで、記念日協会にも登録。「親子」をテーマにした写真展は、外国人特派員クラブ、横浜ランドマークタワー、山梨県立美術館、金沢 21 世紀美術館、愛・地球博園内愛知県児童総合センターなど、各地で数多く実施。

<写真集、著書>

「親子」(デルポ出版)
「Oyako」(INKS INC. BOOKS)
「KAZOKU」(角川書店)
「ごめんなさい」(日本標準)
「反バンビ症候群」(ヒヨコ舎)
「親馬鹿力」(岩崎書店)
「この国の環境」
(アサヒビール・清水弘文堂書房)



「親子の日」の普及推進にあたって、2012年度は右記の企業団体のご協力をいただきました。

●特別協賛



オリンパス株式会社



第一生命保険株式会社



オーティコン補聴器



森永乳業株式会社

●協賛



東京都民銀行



キョーリン製薬ホールディングス株式会社



ドクタープログラム株式会社

●特別協力



毎日新聞社

●協力：オリンパスイメージング株式会社／エプソン販売株式会社
株式会社円谷プロダクション

●後援：J-WAVE

●Special thanks：Spaceport Inc.／滋賀県米原市／石川県珠洲市
愛知県児童総合センター／東京 YMCA "liby"／協同組合日本写真館協会
PFF (ぴあフィルムフェスティバル)／株式会社浪漫堂／NUTS
BB スタジオ広尾／有限会社フィッシュグローヴ／All American Supply, Inc.
広川事務所／Studio Bears



「親子の日」の活動では、グリーン電力(1,000KW)を利用しています。



日・英バイリンガルの「親子の日」情報発信プラットフォームです。「スーパーフォトセッション」で撮影した写真掲載、「写真コンテスト」と「エッセイコンテスト」の入賞者発表、「親子大賞」の投票と発表、「親子ニュース」など、「親子の日」の重要な情報が常に掲載されています。

◆ オフィシャルサイト



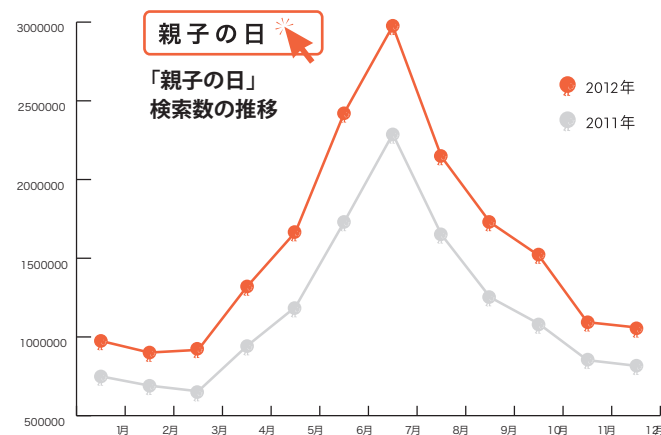
present to the future

2012年の親子の日は
7月22日(日)
>Japanese
2012 Oyako Day
July 22 (SUN)
>English



◆ SNSの活用

Facebook・Twitter・mixiなど、SNSの活用を加え、多くの人たちとのコミュニケーションをはかりました。GoogleやYahoo!JAPANなどで「親子」と検索すると「親子の日」のオフィシャルサイトが常にトップにあり、今年も「親子の日」への関心の広さを実感しました。



昨年に引き続き、通常の公式事業に加えて、被災地応援活動も大きな事業の一環として取り組み、制作物にも活動の内容が反映するようにつとめました。

◆ 「親子の日」ポスター

▼ オリジナルポスター《A2サイズ…500枚》



▼ 円谷プロ特製ポスター
《A2サイズ…500枚》



円谷プロは、「親子の日2012年」ウルトラマン特別バージョンのポスターを作って、全国のイベント会場に掲示。「親子の日」のいっそうの発展に協力いただきました。

◀ エコバッグ《300枚》

10回目の「親子の日」を記念した、
ハッピーなイメージのエコバッグが
できました。



リーフレット▶
《三つ折り観音開き…5,000部》

東日本大震災復興支援ブックレット▼

2011年3月11日の東日本大震災後、ブルース・オズボーンは、被災した親子を対象に、「新たな出発の大切な記念にして欲しい」という願いを込めて被災地で撮影会実施し、撮影した写真をプレゼントしてきました。今年はその写真を「東日本大震災復興支援ブックレット」としてまとめました。売り上げの一部は、被災地の復興支援として活用出来る仕組みになっています。



◆ 「親子の日」フライヤー

《公式イベント紹介
…30,000枚》



フライヤーは「親子の日」の普及に欠かせません。かわいいイメージを強調したカードは非常に好評で、多くの人たちの協力を得てたくさんの人に手渡されました。





ブルース・オズボーンが2003年に「親子の日」を提唱して以来続けている撮影イベント。今年で10回目の撮影会を迎えました。招待させていただいた100組の親子の中には、被災されたご家族、「ITIE☆会いたい」のワークショップに参加した家族なども加わってくださり、たくさんの人たちのだいじな思い出作りに協力することができました。撮影した写真は、後日それぞれの親子に1枚ずつ送付。また、ウェブサイトとオリンパスギャラリーでの展覧会で紹介しました。



撮影／宮庄宏明（オリンパス株式会社）



恒例のスーパーフォトセッションには、被災地からの応募者を含め全国各地からたくさんの応募がありました。写真と一緒に送られてきた応募動機には、様々な親子のドラマが書いてあり、100組の参加者を選ぶのは、非常に困難な作業でした。ここに紹介するのは、撮影した写真と応募の動機の一部です。

＊現在は主婦ですが、子供達が就学したら、働くつもりです。子供達も学業やスポーツなどに忙しくなっていくだろうと、何となく未来を想像しています。そんな日のために、家族の“今”、無邪気な子どもの“今”、穏やかな私たち夫婦の“今”を撮っていただきたいです。

＊最後に家族 4 人で写真を撮ってから、かれこれ17年たちました。2人の息子は独立してそれぞれの家庭をもつようになりました。今回のこのイベントのお話を聞いて、ぜひ17年前のように4人の写真を残したいと思い応募しました。



＊毎年応募させていただいていますが、これまでに当選したことはありません。「親子の日」のホームページを見ては「私の家族も撮影して欲しい…」とずっと思っています。今年こそは幸運の女神が私たちに微笑んでくれることを願って、あきらめずに応募しました。

＊82歳の母と31歳の息子は日本に、私はアメリカに住んでいるので、みんなバラバラに遠く離れて暮らしています。主人の夏休みを兼ねて日本に行く予定になっていますので、応募しました。めったにない良い機会なので、みんなの幸せな姿を記録して下さい。



＊「家族」がいるということの幸せを実感する毎日です。だから、息子もたくさんの愛情を感じて成長してもらいたいし、自分の家族を愛する人になって欲しいと望みます。そんな私たちの、自分たちでは気づけない親子の絆をブルース・オズボーンさんに発見して写真におさめていただけたら、きっと素敵な息子へのプレゼントになると思って応募しました。

＊いつもは、父＋子、母＋子の2人での写真しか撮ったことがないように思います。たまたま出かけた先で、誰かにシャッターを押してもらっても、そんな時に限って誰か目をつぶっていたりして、なかなか納得のいくものを撮れた試しがありません。今度こそは家族3人の笑顔の写真を！それが今回の応募動機です。

＊スタジオデビューするなら魅力的な家族写真をたくさん撮っているブルース・オズボーンさんに撮っていただけたら、私たち家族にとってこんな幸せなことはないです！ぜひ「親子の日」記念イベントの参加者に選んで下さい。



＊第二子の長男が誕生して、新たな希望の光で満ち溢れた毎日ですが、家事にも追われてゆっくり幸福を実感できる時間はあまりないのが本音です。夫婦間にも日々の葛藤が多々あって、ともすると軋轢がおきる出来事もありがちです。そんな私たちにとって、お互いの存在のありがたさを感じることでできるイベントになればと思って撮影会に応募しました。ブルースさん、ぜひ私たち家族の写真を撮ってください!!!

＊今年の「親子の日」は第2子の臨月中です。新たな家族誕生の1ヶ月前ということもあって、親子の意味を再度考えるいい日になりそうです！ぜひ参加させて下さい。



＊昨年末、待望の我が子が生まれました。子どもが生まれたら絶対にフォトセッションに応募すると心に決めていたので応募しました。家族が増えた記念に、今の自然な姿を写してください。

＊主人の誕生日のお祝いに、息子と主人二人の写真を撮影していただけたら記念になるのではないかと思います応募しました。仕事人の主人ですが、撮影を通して父と息子の時間を楽しんで欲しいと思います。

＊ずっと以前、オズボーンさんに撮影していただいた写真は、今でも我家の玄関に飾られています。私達夫婦は勿論のこと、独立した子どもたちも、実家に戻って玄関を出入りする度に、その写真を嬉しそうに何度も何度も見えています。孫も産まれて家族のメンバーも増えましたので、ぜひまた私たちの家族写真を撮して下さい。



＊以前オズボーンさんの写真展に行つて、いつかは、母と一緒に私も写真を撮って欲しいと憧れていました。神戸に独り住まいの母は、昨年心臓を患ったり、怪我をしたりして入院が続き、急に弱くなってしまいました。幸い今現在は、お医者様も驚く程回復しましたので、写真展で見たオズボーンさんの作品のような明るい私たちの写真を撮っていただきたくて応募しました。



＊ブルース・オズボーンさんとお仕事をさせていただき、間近でブルースさんの親子の撮影現場を拝見する機会がありました。その時から、短い撮影時間にも関わらず、モデルの方の緊張が解きほぐされ、それぞれの親子の歴史や関係性、お互いの想いまでにじみ出てくるようなブルースさんのフォトセッションにすっかり魅せられ、いつかぜひ自分も参加したいと思っていました。今回思い切って応募させていただきました。ぜひ参加者の1組に加えて下さい。



＊私たち夫婦は写真が大好きで、年間300枚くらい子どもの成長記録を撮影しています。でも残念なのは、撮影する人がいつもかけてしまう事。全員がそろった写真を記念としたいので、ぜひ参加させて下さい。



＊2011年の震災後2カ月後に娘が生まれました。今は、娘が大きく成長してくれるのが何よりの喜びであり、毎日、生命の貴さを感じています。親と子になれたこと、娘が無事に1歳を迎えられたことを祝って、ぜひブルースさんにこの瞬間を記録していただけたらと思います希望しました。

＊夫を亡くして一人暮らしの義母ときちんと撮った家族の写真がないことに気づきました。日頃の感謝の気持ちを込めて、主人と義母と私が一緒に納まった写真をお母さんにプレゼントしたいと思い応募しました。

＊知人宅でオズボーン氏の撮影なされた写真を拝見し深く感銘をうけました。我家の1回目の「親子の日」の記念に、家族の写真を撮影していただけたら一生の思い出になります。



＊先日、娘から「私は何ジンなの?」と聞かれました。国際結婚をした私たちの子どもとして、お友達と多少違うところがあっても、愛されて生まれたことや自分らしさでいる事への自信、文化が違う国際結婚でも家族の尊さは同じだということを知ってほしいから、「親子の日」の撮影会に応募しました。よろしくお願いします。

＊90年代には、ブルースさんの卒業した Art Center を卒業しました。80年代に、ブルースさんの親子の写真集を見て感動してから今までずーとブルースさんのお仕事に興味を持ち、10年前から「親子の日」を応援してきました。4年前に息子が生まれ、私たちも名実共に親子の仲間入り。今もロスに住んでいますので、帰国のタイミングが「親子の日」となかなか合わなかったですけど、今年はちょうど7月22日に東京にいますので、応募しました。

＊今年、父と母が揃って70歳を迎えます。今は離れて住んでいますが、その記念の年にみんなで実家に集まってお祝いします。家族の特別な年の記念写真、是非撮って頂きたいと思い申し込みさせていただきます。

＊娘2人が結婚し新しい家族が増えていく嬉しい中で、母が病気で入院してしまい、家族の大切さを改めて痛感する年になりました。闘病中の母に、だいに育ててもらった娘からのプレゼントとして、ブルースさんに撮ってもらう写真を送りたいと思います。きっと母も、どんな贈り物よりも喜んでくれると思います。



今回で9回目をむかえた写真コンテスト。
応募総数は1021点と、昨年より更に多くの数の作品が国内外から送られてきました。内容的にも、様々な角度から「親子」の姿を個性的に見つめ、あたたかい中にも充実した作品が揃っており、楽しく審査会をすることができました。
受賞者は以下の30名に決定しました。



◆オリンパス賞



小池安佐子(東京都)



丹羽賢一(宮城県)



石田大士(大阪府)

◆エプソン賞



室峰正雄(愛知県)

◆森永乳業 まきばの空賞



長谷川吉昭(兵庫県)



太野美枝子(福岡県)

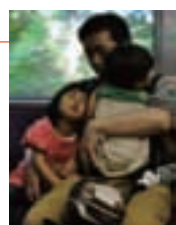


浅岡由次(愛知県)

◆毎日新聞社賞



佐伯寛子(神奈川県)



西城隆憲(東京都)



北野なおみ(和歌山県)

◆円谷プロ賞



成田紗織(群馬県)

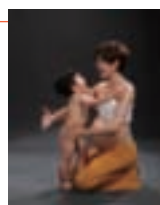
◆ミルトン賞



馬場歩(埼玉県)



河野督(千葉県)



流田修一(岡山県)



石田祐子(大阪府)



比嘉佳寿美(神奈川県)

◆トリニティーライン賞



松田裕次(宮城県)



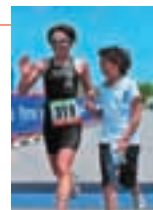
篠永勝昌(埼玉県)



桧枝広美(北海道)



片山智士(京都府)



勝見敦(山形県)

◆オーティコン みみもと賞



吉田美律子(大阪府)



飯田能之(神奈川県)



稲見千恵(茨城県)



佐藤博(埼玉県)



鈴木智代(神奈川県)

◆「親子の日」賞



橋本直子(兵庫県)



後藤有季(熊本県)



置本貴司(奈良県)



大西里美(大阪府)



第8回目をむかえた「親子の日エッセイコンテスト」には、419点の応募がありました。
それぞれの作品にはそれぞれの大切な思いが込められていて、悩みながらの審査会でした。今年も、幅広い年齢層からの応募があつて、多様な「親子」の関係を知ることが出来ました。
受賞者は以下の28名に決定いたしました。



◆オリンパス賞

奥田雅信(兵庫県)

「六月のマフラー」

徳山 嵩(神奈川県)

「肩たたき券」

◆オーティコン みみもと賞

蒲智史(岐阜県)

「足りなかった100円玉」

田中克拓(愛知県)

「タッ、タッ、タッ、タッ、タッ、...」

野口義幸(東京都)

「頭でっかち」

戸祭慎二(東京都)

「つながり」

工藤貴士(熊本県)

「親子のきずな」

◆森永乳業 まきばの空賞

阿部房枝(埼玉県)

「山桜」

向井まゆみ(和歌山県)

「思い出作り」

森玲子(兵庫県)

「母へ願う詩」

◆ミルトン賞

阿部佐恵子(岩手県)

「娘への手紙」

坂井和代(石川県)

「骨折」

平井晶子(東京都)

「お母さんになれた日」

◆トリニティーライン賞

磯崎みどり(Singapore)

「見守る」

風間やすこ(青森県)

「雨の日」

栗田ゆい(東京都)

「世話焼き女神」

鈴木章子(東京都)

「とびきりの夕食」

根岸由美子(東京都)

「元気でね」

◆毎日新聞社賞

阿部綾花(神奈川県)

「再会」

二瓶有加(東京都)

「忘れられないお弁当」

馬場美佐(大阪府)

「二十歳のママからの手紙」

◆エプソン賞

長坂隆雄(千葉県)

「ボケ防止のパソコン」

◆円谷プロダクション賞

高森美由紀(青森県)

「親離れ 子離れ それぞれ」

◆親子の日賞

伊藤たか子(千葉県)

「最後までつきあいます」

久保田愛(静岡県)

「けんかのコツ」

清水なほみ(神奈川県)

「幸せはすべて父を許すことから始まった」

宮永富栄(千葉県)

「暴れん坊将軍と呼ばれて」

吉野成美(千葉県)

「挨拶」



※入賞したすべての写真とコメント、エッセイはウェブサイトに掲載しております。



企業との取り組み オリンパス株式会社

「親子の日」のはじめの協賛企業であるオリンパス。その応援は、今年で9年目を迎えました。ホームページでの「親子の日」告知のほか、社員の方々にも、ボランティアとして運営をお手伝いいただきました。また、東京・大阪のオリンパスギャラリーでの写真展などたくさんの協力をいただいています。2011年、オリンパスとのコラボは、新しい広がりをみせました。東日本被災地応援プロジェクト「I Tie ☆ 会いたい」では、被災地でのWorkShopを実現するため、高級コンパクトデジカメを多数提供いただき、多くの子供たちの笑顔と会うことができました。このプロジェクトは、オリンパスが出資するCIPAフォトエイド(※)の応援もいただき、大きな広がりをみせています。

※CIPAフォトエイドとは、一般社団法人カメラ機器工業会が、被災地支援のために設立したファンド。



企業との取り組み オーティコン補聴器

特別協賛企業として「親子の日」を応援してくださったオーティコン補聴器は、「親子の日」当日のスーパーフォトセッションに、各地から5組のお客様をご招待しました。撮影前日に参加者の親子全員で東京見物し交流を深めたあとで撮影会にのぞむ「みみとも親子ツアー」は、たいへん喜ばれ、「親子の日」とのコラボレーションとして効果的な企画でした。また、業界紙などに「親子の日」についての告知をするなど、啓蒙活動にも力を入れて下さいました。



▲ 時宝光学新聞掲載記事 (2012年5月15日)



企業との取り組み 第一生命保険株式会社

第一生命の生涯設計デザイナーが、顧客用にハンドリングするための「親子の日ニュース」を5回にわたって制作。「親子の日」のメッセージが、たくさんの人の心に届きました。



▲「親子の日ニュース」



企業との取り組み 森永乳業株式会社

森永乳業は、「まきばの空」牛乳パックの一面に、ブルース・オズボーンの撮影した写真と「親子の日」のメッセージを印刷。プロモーションを行いました。「親子の日」当日の撮影会に抽選で招待するというキャンペーンは非常に応募者が多く、大成功の評価をいただきました。また各地からパッケージを見たという連絡も多数受け、「親子の日」のメッセージが広がっていく事を実感しました。



▼「まきばの空」オリジナルストラップ。



森永乳業のコンテストに受賞して「親子の日」スーパーフォトセッションに招待された親子の写真も、牛乳パッケージに使用。シリーズ化されて店頭に並びました。





企業との取り組み キョーリン製薬ホールディングス株式会社



▲Milton ママクラブ HP



今年で2年目の協賛企業となるキョーリン製薬ホールディングス株式会社は、Webを中心に「親子の日」に込められたメッセージのプロモーションを展開。たくさんの人たちに「親子の日」の大切なメッセージを配信してくださいました。

ドクタープログラム株式会社



トリニティーラインでは、今年も10万部の会報誌6月号、10月号にて告知と実施報告を展開。またWebにおいては、インフォメーションやバナー、メルマガなどで認知拡大を図っていただきました。



J-WAVE

「親子の日」普及のための後援をしてくださっているJ-WAVEでは、今年も、SHELLYがナビゲーターをつとめる「kiss&hug」などの番組でたくさんの時間を提供いただき、「親子の日」のPRと写真展の告知をしていただきました。また、「ソトコト」の編集長



小黒一三さんがナビゲーターをつとめる「LOHAS TALK」にも出演して「親子の日」をロハスな側面から語りました。



企業との取り組み 毎日新聞社

特別協力として応援してくださっている毎日新聞社は、4年目になる特集の「親子インタビュー」を継続。この編集記事は、ブルース・オズボーンが撮り下ろした各界の親子写真と、記者によってインタビューされた親子のストーリーから、さまざまな親子の関係を浮き彫りにするもので、興味深いシリーズとして定着してきています。

▼2012 正月特集「家族の絆」
(2012年1月1日掲載)



▲ 3月11日の紙面には5段で3ページのスペースをご提供いただき、毎日新聞社と「親子の日」から被災地への応援メッセージを掲載しました。



▼Mr.マリック×LUNA親子(2012年4月29日掲載)



▼土屋真弓×土屋アンナ親子(2012年6月24日掲載)



松たか子
松本紀保 親子(2012年7月21日掲載)
▼松本幸四郎×松本紀保親子



▼谷村新司×谷村詩織親子(2012年2月26日掲載)



▼清水アキラ×清水良太郎親子(2012年5月27日掲載)



▼加藤剛×頼三四郎親子(2012年7月22日掲載)



▼九重親方×秋元梢親子(2012年8月26日掲載)



▼布川敏和×布川隼汰親子(2012年10月28日掲載)



▼辰巳琢郎×辰巳真理恵親子(2012年12月14日掲載)





被災地の小中高生と、
そこに住む人たちが、
カメラを通して見つめた日常の風景

★展覧会では、来場者に投票をしていただき、投票数を多く獲得した作品の中から、ワークショップに参加した写真家とスタッフで各地域ごとに1名セレクト。選ばれた作品を制作した生徒には、ワークショップで使用したカメラをプレゼントしました。以下、受賞者の作例です。



▼2012年4月 毎日新聞・宮城版



▼2012年10月 毎日新聞



▼2013年1月 毎日新聞



▼2012年5月 河北新報



掲載記事



▲『I TIE ☆ 会いたい』の活動報告写真集



▲東北生活文化大学高等学校冊子

被災により失われたさまざまな絆を取り戻すきっかけに
してもらおうと、CIPA フォトアイドの助成金を得て、ワーク
ショップ形式の「I TIE ☆ 会いたい」プロジェクトがスタートしました。

このワークショップには、ブルース・オズボーンとともに
写真家の熊谷正さんと高橋まゆみさんが参加し、被災地
の子どもたちを中心に、撮影方法についてわかりやすく
手ほどきしました。撮影技術や写真の役割等、ワークショップ
で学んだことを生かして復興していく町並みや家族や
友だちの様子を撮影した参加者は、撮影した写真にキャ
プションを書くためのレクチャーをライターや編集者から伝授。写真だけでは伝わらなかった思いを加えて作品を
完成しました。また、このワークショップでは、インターネット上に写真を掲載できるプラットフォームも構築したので、
復興の様子を発信したり、被災後、ふるさとを離れ各地で
避難生活を余儀なくされている仲間たちに互いの近況を
伝えることができました。同時に、地元の写真館とも連携。
ワークショップ後も地域のネットワークの拠点として関わっ
てもらうことができました。

<http://i-tie.jp/>

I TIE ☆ 会いたい 関連の写真展とイベント

新宿芸能花伝舎

8月11日(土) ピヨンドXプロジェクト
が主催したイベント「新宿でつながろう! 東北」に出展。「I TIE ☆ 会いたい」
にとっては最初の作品展示会。被災地の
声を来場者に伝えることの大切さを実感
させてくれ、有意義な展覧会でした。



赤坂ギャラリー

10月25日～30日の6日間、赤坂
サカス内にある赤坂ギャラリーで、
「I TIE ☆ 会いたい」で制作した作品の
中から選んだ82点の展示会を開催。
新聞やテレビなどのメディア協力で、
入場者は1000人を超え、展示会中、ほ
かの会場での展示依頼も多数受けまし
た。この展覧会がきっかけとなり、
巡回展がスタートしました。本写真展は、
写真家の松下哲也氏の協力で3D
ギャラリーに。来場出来なかった人
たちにも見てもらうことができました。



淡路島での展覧会

★12月8日(土)／第8回淡路市人権
を考える集いで展示会
於：サンシャインホール
主催：淡路市人権教育研究協議会
★12月9日(日)／南あわじ市人権
フェスティバル2012で展示会
於：三原公民館
主催：南あわじ市人権フェスティバル
実行委員会
自治体との共労で実施が実現した展
示会でしたので、地元の人たちにたく
さん見ていただくことができました。



3331 Arts Chiyoda

2013年1月18日(金)～27日(日)、千
代田区末広町の3331Arts Chiyoda
内コミュニティスペースで展示会。
会期中に、《「I TIE ☆ 会いたい」～被災
地と東北がつながる～》ワークショッ
プを開催。撮影した写真にコメント
を書いて被災地への思いを込めた
メッセージを送りました。また会場では
「親子の日」普及推進委員会のメン
バー猪股敏郎氏制作の映像を流し、
来場者に活動の様子を詳しく知って
いただくことができました。



ご来場者からのメッセージ

被災地の子ども達の展覧会が開か
れることは、子ども達にとっても
被災地を身近に感じ嬉しい。多く
の日本人、また、海外の方にとっ
てなど、多方面でとても有意義な
ことと考えます。物質的復興には、
精神の健康が不可欠と考えます。

素直な気持ちで撮られた写真だと
伝わってきました。ぜひ、写真を
撮ることを続けて欲しいと思いま
す。(カメラマンより)

これだけで被災した方々の気持ち
がわかる、とは到底言えませんが、
少し目線を合わせることができた
気がして、胸がつまる思いでした。

伝わってくるものがたくさんあり
ます。キャプションも写真の一部だ
ということがよくわかりました。

前向きな写真がほとんどのように
思いましたが、写真を撮った子ども
達の思いは複雑なのだろうと想像
します。

少しずつ忘れていきそうな震災の
こと。まだまだ復興が進まない状況
の中にある不安もあると思います。

今回の写真展とおし、逆に元気
や感動を写真と言葉から私がもら
いました。ありがとうございました。

◀「I TIE ☆ 会いたい」の活
動をまとめた映像は、写真
展をより立体的に見てもら
うことができました。



7月の第4日曜日は
親子の日



親子大賞2012

親子の日普及推進委員会では、「親子」について考えるきっかけになって欲しいとの願いから 輝いている親子を投票で選ぶ「親子大賞」を実施。今年6回目の受賞者は平原まことさんと平原綾香さん親子に決定しました。お二人が発信する親子パワーが、少しでもたくさんの人たちに届いて、世の中の元気が倍増するよう、願わずにはられません。

「親子大賞」に選んで頂き、ありがとうございます！
家族で大喜びしております。
これからも、「平原さんちのコンサート」を続けて
いきたいね！と さらに夢が広がりました。
「親子の日」に込められた、たくさんの愛が
もっともっと、世界中に届きますように・・・！
平原まこと 平原綾香

☆平原綾香公式サイト <http://ameblo.jp/hirahara-ayaka/>



▲「親子大賞2012」は、平原まこと・平原綾香親子に決定！



親子大使 …今年あらたに4名の方が「親子大使」に加わって下さいました。

親子大使は、「親子の日」のメッセージ・ナビゲーターとして、それぞれの立場から「親子の日」への思いを発信していただき、より広くたくさんの方に「親子の日」に込めた思いを伝達して欲しいとの願いから始めた制度です。

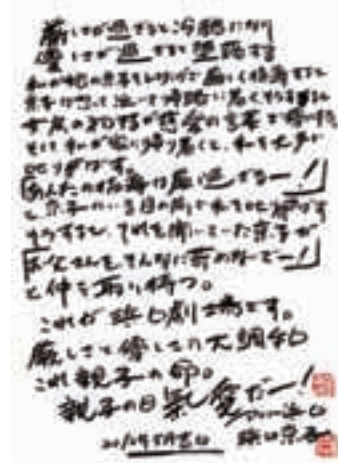
陽 捷行

元北里大学副学長



「親子の日」が「分離の病」を治す。
古往今来という言葉があります。昔から今に至るまでといったぐ当り前の言葉ですが、今ではほとんどの若者が知りません。われわれは分離の病に憑かれているのです。人類来し方の潮流を、点でしか見れない、時空を超えた視点で世界を観る力を失っているのです。「われわれは、どこからきて、いまどこに行こうとしているのか」。この命題は、人、集団、組織、社会、国家、延いては自然を含めた生命すべてに、いつも付きまといまします。ブルースさんと佳子さんの仲間は、この命題の重要性を「親子」という、最も基本的なところで人びとに提示してくれています。「親子の日」という企画は、「親子」から「親子孫」という形でさらなる発展を遂げる可能性を秘めています。日本語は、「親子」という言葉をもっています。ブルースの仲間は、いつかこのすばらしい日本語を発酵させてくれるでしょう。

アニマル浜口 元プロレスラー 浜口京子 レスリング選手



つるの剛士 /俳優

ボクの生き方マニュアルはズバリ両親です。
そしてボクの子供たちにもいつかそう感じて貰えるように日々、親子で愉しく生きていきたいと思ひます。

ステキな親子サイクル。

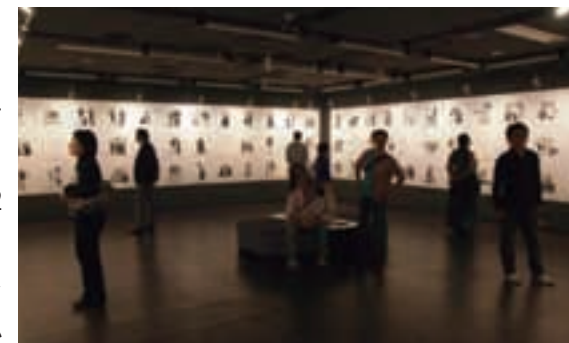
ボクは「親子の日」の活動を応援させていただきます。



オリンパスギャラリーでの写真展



オリンパスイメージングとの共催で、東京(9月27日～10月3日)と大阪(10月18日～24日)のオリンパスギャラリー2会場の展覧会が実現しました。写真展のタイトルは「親子の日2012～親子の日に出会った親子～」。



写真の他に、「親子大使」からのメッセージを展示。たくさんの来場者から、温かい共感のコメントをいただきました。協力いただいたエプソンからは、プリントのためのインクなどのご提供をいただきました。



各地で実施された写真展

ブルース・オズボーン『絆～KIZUNA～写真展』

＊9／27～10／22 於：京都府城陽市アル・プラザ城陽

ブルース・オズボーンが撮影した写真を展示。同時に、会場内で撮影した親子写真を館内のバナーとして展示。「親子の日」のPRに協力して下さいました。



水源の里まいばらOYAKO写真展withブルース・オズボーン『かけがえのないもの』～東北で出会った親子たち～

＊6／16～12／26於：滋賀県米原市 JR米原駅自由通路
米原市は、今年も「親子の日」にちなんだ数々のイベントを開催。JR米原駅の自由通路の「親子ギャラリー」には、ブルース・オズボーンが撮影した被災地の写真を会場いっぱい展示。被災地への応援メッセージを伝えるための場を提供して下さいました。今回、展示物の文字は書家の紫舟さんが担当。これがきっかけで紫舟さんのイベントにブルース・オズボーンの写真を使うコラボレーションへと発展しました。



「ブルース・オズボーン 親子写真展 ～未来の私たちへの贈り物～」 ＊7／22～8／26 於：静岡県静岡市市民美術館多目的ホール

事前に撮影した静岡在住20組の親子写真を加え展示。最終日には、ブロードキャスターのピーター・バラカン氏とブルース・オズボーンが、レコードジャケットや、その写真にまつわるエピソードなどを、音楽とともにご紹介するトークイベントをしました。



「3・11の被災地をたずねて」 ＊5／5 於：神奈川県三浦郡一色 元町会館

20回目になる葉山芸術祭との共催イベントを実施。被災地で撮影した親子の写真を展示し、同時に、1月10日にNHKワールドで世界に配信されたオズボーン出演の番組 O y a k o Forever / Present to te Futureを上映しました。





◆ 協同組合日本写真館協会

今年も、写真館が企画した「親子の日」撮影プロジェクトのニュースを全国からいただきました。2013 年にかけても、前向きに検討して下さっている写真館が多く、今後が期待できます。



▲YOSHIDA PHOTO STUDIO



▲アディ写真スタジオ



▲斉藤スタジオ



▲LIFE スタジオ



▲今井写真館



▲スタジオ amoretto



▲YAEGAKI スタジオ



▲ハートフルフォト

◆ 親子つぶやき大喜利DNA Circus

今年、TWITTER を使ったイベントを、初めて試みました。たくさんの人からの楽しいつぶやきで、TWITTER バーチャル会場は賑わいました。イベントの方法は、親子や家族の絆に関するいくつかの「お題」を出して、そのお題にツイートします。応募されたつぶやきの中から、特に親子の絆にあふれたつぶやきを投稿された参加者には、「親子の日」からオリジナルプレゼントを贈りました。



◆ 「親子の日」に親子でオムライスを作ろう作戦！

7月22日於：ビストロパパ

ビストロパパの滝村雅晴さんと「親子の日」で、今年新しくスタートしたイベントは、「親子の日」に親子でオムライスを作ろう作戦！美味しいオムライスを作って投稿してくれた人には、滝村さんと「親子の日」から賞品と表彰状を授与しました。



◆ HaLAフォーラムで講演会

2月24日(金)／於：文京区シビックセンター
～グローバル視点から再発見した日本人の「絆」と「気づかい」～

ブルース・オズボーンが、ハッピーライフアライアンス主催の講演会で、「日本人にしか出来ない気づかいの習慣」の著者上田比呂志氏と一緒に講師として講演をしました。集まったのは、「幸福度90位の国を幸福度トップにしよう」という HaLA フォーラムの共通理念に共感する、全国から集まった経営者。「親子の日」について、皆さんから共感をいただきました。新しい種の今後の成長が楽しみです。



◆ OPEN SHOW TOKYO

6月27日／於：東京写真美術館 アトリエ

それぞれの写真家が、自分の写真を通じて表現したい事を発表。ブルース・オズボーンは、「親子の日」を通じて写真とソーシャルアクションについて語りました。



◆ 共育フェスタにて親子撮影会 7月16日(海の日)

於：横浜西口カルチャースクール マナビバ

「親子の日」を応援して下さい「TIE ☆会 いたい」のプロジェクトメンバーでもある写真家の熊谷正さんは、「親子の日」を広げるための撮影イベントをして下さいました。



◆ E親子の日撮影会

7月22日／於：マイハウス

名古屋市で活動する一般社団法人チャンスは、「親子の日」当日に撮影会を実施。「親子の日」の浸透をサポートして下さいました。



◆ INDELIBLE IMAGES

3月11日／於：社団法人日本特派員協会

被災地を訪れたブルース・オズボーンを取材した番組（今年の1月にNHKワールドで放映）を、有楽町にある日本特派員協会で上映。素晴らしい活動であると評価をいただきました。



◆ 洋之助ファンフェスタ 9月2日／於：葉山公園

葉山公園を中心に、環境をテーマにする洋之助ファンフェスタで、「BRUCE OSBORN - Barefoot Studio」撮影会を実施。空と海を背景にした楽しい写真撮影会でした。





公式サイト「各地のイベント」に登録された情報

「各地のイベント」サイトに登録される親子関連事業が年々増加しています。
事業の内容はさまざまで、「親子」というキーワードが生活に密着しているという事が実感できます。

*音と対話するコミュニケーション（東京都）



*生ピアノでハピコミあやこヨガ 2012（東京都）



*親子で楽しむクリスマスオペラ（東京都）



*親子の日応援イベント in 横浜
(神奈川県横浜市)



*被災地における離婚子ども問題相談会
(宮城県仙台市)



*「世界最大恐竜大国 2012」（千葉県）



*ファミリースポーツフェスティバル 2012
「万博わんぱく大運動会」（大阪府）



*親子のためのクリスマス音楽祭（東京都）



*長友佑都 PV 出演！ ET-KING が
母から子へのメッセージ曲
(東京都)



*フォトセッション in 日進
Rinのおうちの夏まつり（愛知県）



*離婚後の親子の絆を結ぶ（大阪府）



国内メディア情報 — TV・ラジオ・新聞

新聞、雑誌、インターネットなど、おおくのメディアが今年も「親子の日」についての情報を公開して下さいました。海外からの取材も増え、2013年に10周年を迎える「親子の日」にとって、効果的な一年でした。

◆テレビ

*「人生が変わる1分間の深イイ話」 3月12日の＜親子の絆スペシャル＞では、斎藤洋介さんと悠さんが出演。2010年6月19日の毎日新聞に掲載されたブルース・オズボーンの写真も同時に紹介されました。



*1月9日の成人の日、ブルース・オズボーンが20年前に撮影した当時10代の彼らに改めて会い撮影をする＜再会＞という番組が放映されました。



*2月10日に、ブルース・オズボーンが被災地で親子を撮影する様子を映像におさめたドキュメンタリー映像が、＜NHKワールド＞で世界中に放映されました。



◆ラジオ

*6月6日、奈良どっとFMの＜プロフェス・サロン＞に出演し、ナビゲーターのゴンザレス・井原さんと「親子談議」をしました。



*7月12日、Mick Corlissがナビゲートする＜NHK World Radio Japan＞に出演しました。



◆新聞



◀月間おかあさん業界新聞



◀静岡新聞7月20日



▲毎日新聞 7月30日



▲デイリースポーツ10月1日



▲京都新聞
6月10日



◀毎日新聞京都版9月28日



▲東京新聞1月31日



◆雑誌

＊北里大学発行の季刊誌＜雷：いかずち＞に、「親子の日」の活動や被災地での出会いを掲載。その後、北里研究所とドイツ国立ローベルト・コッホ研究所で行った合同のシンポジウムでも、「親子の日」被災地応援プロジェクトとして撮影した写真を、東日本大震災後の日本の様子を説明するための資料に使用。震災後の日本人のたくましい姿に会場からたくさんの共感を得ました。



＊2012年12月に再び被災地を訪れて、被災地のその後を取材したブルース・オズボーンの写真が、2013年3月号の＜ナショナルジオグラフィック＞に掲載されました。



＊＜湘南スタイル＞

ACTUSの協力を得て、“湘南「親子の日」”が実現。会場となったテラスモール湘南で撮影会を実施しました。



◆WEB マガジン

＊ありがたい感謝の気持ちを応援するWebマガジン＜ありメン＞で、紹介されました。



＊お母さん達への応援をメインに作られたWebマガジン＜お母さん大学＞で紹介されました。



◆WEB

SPACEPORT



平原綾香ブログ



静岡市美術館



「親子の日 2012」YouTube



デジカメ watch



◆WEB

Oriental Dance Ayla ブログ



lekumo (ルクモ)



ケロヨン日記



アサヒカメラ .net



IMA ONLINE



くすりやさんの戯言



親子の日はいつ？



オリコン



写真の光陽スタジオメモ



キッズ goo



パパではんの日



パパの時間





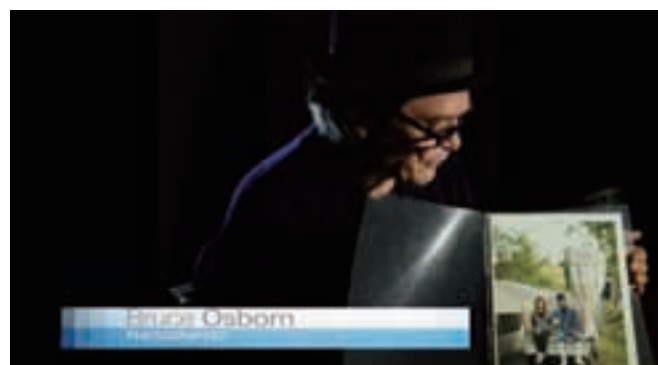
海外のメディアに取り上げられることが多く、「親子写真」への反響も高まってきました。
海外のファンから「親子の日」に共感する内容のメールの数が増えてきたということも実感します。

◆テレビ



Witness Japan: One Year Later

アメリカのテレビ局、ABC のニュース番組で、東日本大震災の 1 年後という番組が 4 回のシリーズで放送され、ブルース・オズボーンが東北を訪れて取材した被災地の状況を、アメリカの視聴者に届けました。



◆PR誌

井井屋

米原市の展覧会で紫舟氏とコラボレーションしたのがきっかけとなり、紫舟氏のボランティア活動に協力。
井井屋が被災地への応援のために制作したポストカードや PR 誌に、ブルース・オズボーンの写真を提供しました。

◆WEB

Alumni News



ENCYCLO



Nippon Sekao



PhotoGuide Japan



Behance



Hello Fun Time



WIKIPEDIA



FLAVORWIRE



FLAVORWIRE




ハッピーママ>>

親子の日写真コンテストに入賞したよ。昨年の夏に撮影した写真で子どもがまだ産まれて間もない時のもの。だいいな写真が賞に入って、幸せいっぱい！

ママともからも、たくさん「おめでとう〜」って言われて、幸せ増倍！賞に選んでくれて、本当にありがとうございました。

 ひとり応援団>>

父を 50 数年前に、そして母を 27 年前に見送った。私の子どもが 15 年前に巣立っていったの考えると、親子で暮らせる期間の短さを実感する。7 月第 4 日曜日は「親子の日」だ。親のことを思い、子どもを思う日! みんなの大切な記念日になって欲しい。



しらさぎ>>

今日は、「ブルース・オズボーン
写真展 親子の日 2012 に出会
った親子」を見て来ました。数
年前にセミナーで生撮影を見た
りお話を聞いてから、多大な影
響を受けている方の写真展なの
で、どうしても見たかったんで
す。飾られた親子の写真と被写
体となった親子のインタビュー
のムービーを見て改めて親子、
家族の写真を撮ることの意義や
大切さを見直すことができました。
忙しかったので、大阪には
トンボ帰りでしたが、写真展を
見たり、ずっと行きたかったレ
ストランで食事もできし・・・
満足な一日でした。



 長郎>>

「親子の日」が始まって10周年です。「親子の日」がはじまる前から、オズボーンさんのお仕事に興味を持っていたので、今でも精力的に活動が続けているブルースさんには敬意を持ち陰ながら応援している1ファンです。これからも頑張ってください!

ななみ>>

「親子の日」の応援で、私たちも撮影会を企画しました。今年初めての試みでしたので、多少の手違いなんかはありましたけど、なんとか無事終了！たくさん素敵な親子に会って、たくさんのお愛を感じて、最高に幸せな疲労感です。

今日ご参加くださったみなさま、お声がけくださったスタッフの皆様、本当にありがとうございました。また、来年「親子の日」にお会いしましょう。。。。



 バンザイ>>

先日出席させていただいた結婚式で、親子の絆を強く感じるプレゼントに出会いました !! 両家のお母様が協力して、新郎新婦様に歌をプレゼントされたのです (^ ^)

両家がそれぞれにプレゼントを贈りあうことはありますが、両家のご両親が協力して新郎新婦に素敵なプレゼントをするのは稀。ご両家の絆と親子の絆を感じることができた、素敵な披露宴でした (*^^)v

今日は「親子の日」だそうです。絆で強く結ばれた親子が、世界中に増える事を願っています。

子バカ>>

小さいころから、私の言うことやする事を何でも喜んでくれる、完全な親バカの母。愛されてます、私。感謝です。

先日、7月22日は、「親子の日」だと聞いたので、「親子の日」のサイトでオズボーンさんの撮った親子写真を見たら、私も、その親バカな母と一緒にオズボーンさんの被写体にして欲しいと思いました。今年はすでに募集が終わっていたので、来年チャレンジしてみようと思います。

 **坂の上>>**

「オズボーンさんの「親子」写真集を見て、スツカリ虜に。面白いですよ。オススメです。「親子」新しく撮った親子も加えて、新しい写真集、出版してくれないかな～



つよし>>

30数年前にブルースさんを知って以来、尊敬しています。どの写真を見ても、撮影に使うパワーがきつとすごく大きいんだと思うけど、更にすごいと思うのは、「親子」のシリーズのように、一つのテーマを継続するというすごいパワーを持っている。かっこいいです。

だから、「親子の日」が早く国民の休日になって、オズボーンさんのパワーを世界に振りまいて欲しいです。



ピース>>

「親子の日」のサイトにこんな言葉がありました。「合理性と機能性を求めて変化を遂げた社会は、地球の環境にも大きな影響を与え、わたしたちを戸惑わせています。今、私達に求められていること、それは親子というベーシックで誰でも平等に与えられた関係を再確認すること。それは存在する事への自信を取り戻すことでもあり、人類として地球環境を大切にすること、思いへとつながることもあります。」という理念なんです。ピースですよ。


明日の風>>

7月22日（日）私たちの町でも、「親子の日」のイベントが開催されました。縁日や体験ブースなどがあり、夏休みの思いで作りが出来ました！ふれあい撮影会では、お友達がいっぱい遊びに来てくれて、たくさん触れ合いができました。応援隊も参加して賑やかで楽しい一日でした。来年も是非やって欲しいです。

 ごろ根>>

いつもながらの言い過ぎた一言が原因で、息子が不機嫌な顔で学校に出かけたあと、静岡市美術館で開催中の「親子の日! ブルース・オブズーン 親子撮影会 ～未来の私たちへの贈り物～」に行きました。どの写真も躍動感に溢れていて、さっきまでの塞いだ気持ちをあたたかく包んでくれました。

そして、見えない絆までが写っている写真を見ながら、息子が帰る時にはやさしく迎えてあげよう・・・と、心に誓って会場をあとにしました。



吉兆輩>>

見てきたよブルース・オズボーン写真展
場所は大阪市西区阿波座 1-6-1
オリンパスギャラリー大阪
どれも素敵な写真がズラ〜り並んでる中に友達の写真。
なんとと言うか、いつもとちよつと違う友人の変で嬉しい感じ！
うちの親子も撮って欲しい〜



 ドキドキ>>

「親日の日」の撮影会に参加しました。撮影会場にやってくる親子さんたち。(私たち親子も含めて) ちょっと照れて気まずそうな思春期の少年や、反抗期の娘。お嫁にいった娘さんにつれてこられて照れくさそうな親父さん、久々の再会で照れあいながらもカメラの前に立つ母息子、など、ドラマがあるんですよ、全組に。共通するのは、みんなちょっと照れくさいんですよ。

人前で写真撮られるうえに、一緒に並んでるのが親だったり、子だったりして。そんな、家族の絆をすかさず撮ってしまうオズボーンさん、素敵です・・・





「親子の日」の歩み

- 2003** はじめての親子の日
ブルース・オズボーンの自主企画として 100 組の親子を撮影
・「親子の日普及推進委員会」発足
- 2004** 2 回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」で 100 組の親子を撮影
・オリンパスギャラリーにて写真展「親子」を開催
・第 1 回「親子の日写真コンテスト」を開催
- 2005** 3 回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」で 100 組の親子を撮影
・「親子の日」を記念日協会に正式登録
・銀座アップルシアターで音楽と映像の融合イベント『OYAKO open mic.』を開催
・TV 金沢の主催により金沢 21 世紀美術館で『親子』写真展を開催
会場内特設スタジオでの公開親子撮影会で石川県の親子 30 組を撮影
- 2006** 4 回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」で 105 組の親子を撮影
・外国人記者クラブにて、『親子』写真展を開催
・日本写真館協会の主催イベントにて大阪の親子 30 組を撮影
・愛知県児童総合センターにて『親子』写真展を開催
・第 1 回目「親子の日エッセイコンテスト」を開催
・オリンパスギャラリーにて『ブルース・オズボーンと親子写真』開催
- 2007** 5 回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」で 100 組の親子を撮影
・オリンパスギャラリーにて『親子の日報告写真展』開催
・第 1 回「親子大賞」を実施
・愛知県児童総合センターにて『親子』写真展を開催
・能登半島地震の被災者親子写真を撮影、ラポルト珠洲で展覧会を開催
・石川県珠洲市が、「親子の日」を公式制定
・JCII（日本カメラ博物館）、千葉県ユーカリが丘にて写真展開催
- 2008** 6 回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」で 100 組の親子を撮影
・オリンパスギャラリーにて『親子の日報告写真展』開催
・愛知県児童総合センターにて、『親子』写真展開催
・埼玉県越谷市のレイクタウンで『親子&仲間』写真展開催
- 2009** 7 回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」で 100 組の親子を撮影
・オリンパスギャラリー（東京・大阪）ブルース・オズボーン 写真展－「親子の日 2009」に出会った親子－開催
・東京ビッグサイト「Photo Imaging Expo 2009」で撮影とトークイベントに参加
・毎日新聞が「親子インタビュー」を連載スタート
・arp の“わたしのこえ”を第 1 回公式ソングと決定
・銀座アップルシアターで、arp とコラボレーションのイベントを実施
・川崎アートセンターで『夏休みは親子 de 映画』企画。写真展も開催
・阪急三番街 40 周年記念イベント『親子写真展』を開催
・愛知県児童総合センターにて、親子写真展『家族のうれしい顔』を開催



金沢 21 世紀美術館での「親子」写真展



愛知児童総合センターでの「親子」写真展



スーパーフォトセッション撮影風景



オリンパスギャラリーでの写真展



越谷市レイクタウンオープニング挨拶

- 2010** 8 回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」で 104 組の親子を撮影
・オリンパスギャラリー（東京・大阪）ブルース・オズボーン 写真展－「親子の日 2010」に出会った親子－開催
・滋賀県米原市が、「親子の日」を公式制定
・MOOMIN の「うまれたての瞳」が 2010 年公式ソングと決定し、銀座アップルシアターで「親子の日」普及のコラボレーションイベントを実施
・毎日新聞が「親子インタビュー」の連載スタート
・University of the Pacific（カリフォルニア）で、海外初の「親子写真展」開催
・「親子大使」制度の導入
・ブルース・オズボーンが「親子」の写真で、International Photography Awards を受賞。海外でも「親子」の写真が高い評価を受けた
・第 4 回キッズデザイン賞にエントリー。入賞を果たす

- 2011** 9 回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」で 110 組の親子を撮影
・オリンパスギャラリー（東京・大阪）ブルース・オズボーン 写真展－「親子の日 2011」に出会った親子－開催
・公式イベントの「写真コンテスト」は 8 回目、「エッセイコンテスト」は 6 回目、「親子大賞」は 5 回目となる
・6 月、被災地訪問プロジェクトを企画。第一回目は、相馬の親子撮影を実施
・7 月、米原駅で「水源の里まいばら OYAKO 写真展」かけがえのないもの“with ブルース・オズボーン”を開催
・10 月、第 2 回目の被災地訪問プロジェクトとして、岩手県の宮古市、大船渡市、釜石市、大槌町、田老町、宮城県の気仙沼、南三陸町で親子撮影を実施
・CIPA フォトエイドの助成を受けて、東日本被災地応援プロジェクト「I TIE ☆ 会いたい」を 2012 年に実施する事が決定

- 2012** 10 回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」で 110 組の親子を撮影
・オリンパスギャラリー（東京・大阪）ブルース・オズボーン 写真展－「親子の日 2012」に出会った親子－開催
・第 9 回目「写真コンテスト」、第 7 回目「エッセイコンテスト」を開催
・第 6 回となる「親子大賞」を実施
・NHK ワールドで、ブルース・オズボーンの活動が世界に向けて発信される
・東日本被災地応援プロジェクト「I TIE ☆ 会いたい」ワークショップを、南三陸、仙台市、大槌町、田老町、相馬市で実施
・滋賀県米原市 JR 米原駅のステーションギャラリーに於いて『かけがえのないもの』～東北で出会った親子たち～”実施（6月11日～12月26日）書家の紫舟氏とコラボレーションを
・Twitter を使ったイベント「親子つぶやき大喜利～DNA Circus～」を実施
・ハバゴはんと共催イベント「親子の日」にはオムレツを作ろう”を実施
・J-WAVE「LOHAS TALK」に出演。月刊ソトコトの編集長小黒一三氏と対談
・静岡市美術館で「親子写真展～未来の私たちへの贈り物～」開催。ピーター・バラカンとトークショーも（7月22日～8月26日）
・8 月、新宿芸能花伝舎にて、「新宿でつながろう！東北」に「ITIE ☆ 会いたい」参加。写真展示と映像の上映
・「東日本大震災復興支援ブックレット」を制作。（売り上げの一部を被災地の復興に寄付）
・アル・プラザ城陽で親子バナー写真展開催。9 月 27 日より実施
・10 周年記念イベントとして「親子」をテーマにした映画と書籍の制作がスタート
・10 月、「I TIE ☆ 会いたい」報告写真展を、赤坂サカス内の赤坂ギャラリーで実施
・12 月、「I TIE ☆ 会いたい」報告写真展を、兵庫県淡路市、南あわじ市で開催



PIE イベント会場



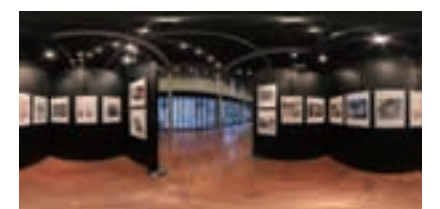
阪急百貨店「親子写真展」



University of the Pacific で海外初の「親子写真展」



被災地訪問プロジェクト



赤坂サカス「I TIE ☆ 会いたい」報告写真展